ヤングケアラー支援に係るオンデマンド研修

スクールソーシャルワーカーによる支援②

～学校や地域でできる支援を考える～

北海道教育庁学校教育局生徒指導･学校安全課
北海道スクールソーシャルワーカー

栗田　郁子

学校の「ヤングケアラー」との出会い①

学　校：「不登校」や「養育力の不足」といった
表面化している事象としてだけの捉え

ＳＳＷ：子ども本人や家族関係をアセスメントする上で、
家族の中での本人の役割（労働力や経済力の
提供や搾取、子ども本人が精神的にも親の
保護者として機能せざるを得ない状況）に注目

**子ども本人の心身への負担や将来への影響を
視野に入れられるように変化**

（ヤングケアラーとしての捉え）

学校の「ヤングケアラー」との出会い②

学　校：**「ヤングケアラー」としての子ども理解**

「何とか子どもからケアの役割を外すことで、子どもの世界を守ってあげたい！！」

↓

対応可能な機関はないか？役所？児相？

↓

つながる機関、使えるサービスがない！

↓

この子を救える手段がないもどかしさに苦悩

↓

「学校の日常」に戻らざるを得ない
毎日子どもの様子を見る学校の苦しさ

ヤングケアラーへの対応事例

【家族の介護のために欠席が続く生徒】

　要介護の家族の生活支援のために欠席が続く生徒。家庭の状況がわかり、福祉サービスの利用により本人の負担軽減を図るべくSSW派遣要請。

学校との情報共有の中で・・・

・家族のサービス利用状況は？
・本人と家族との関係は？
・本人の学校への適応状況は？

アセスメントのポイント

・問題の明確化～環境との関係から

今何が起きているのか

本人や家族、関係者はそれをどう捉えているのか

それぞれの持つ課題

お互いの関係性

問題を継続させる要因は何か

・ストレングスや目標・過程の確認

＊能力・資源・強み。具体的には、人々が持つ特性・才能・知識をはじめ、逆境を乗り越えてきた力や経験なども含まれる

・関係機関との連携支援・役割分担

ヤングケアラーへの対応事例

【他機関連携】
・生活保護課　／　居宅介護支援事業所
・経過の確認
　⇒本人がどんな文化の中で生活してきたかを理解
【本人支援】
・学校の本人理解（特性含め）
・本人の精神的支援（SC活用）
・環境的配慮と学習支援
　⇒本人がどんな思いで生活をしているかを理解
　⇒現状の中で、本人にどんな経験をさせようか？

SSWの立場で考える「ヤングケアラー」支援

学　校：「ヤングケアラー」としての子ども理解

「何とか子どもからケアの役割を外すことで、子どもの世界を守ってあげたい！！」

↓

SSWの問い：「ケアの役割を外すことだけすれば、
この子は健全な生活を送ることが可能なのか？」

↓

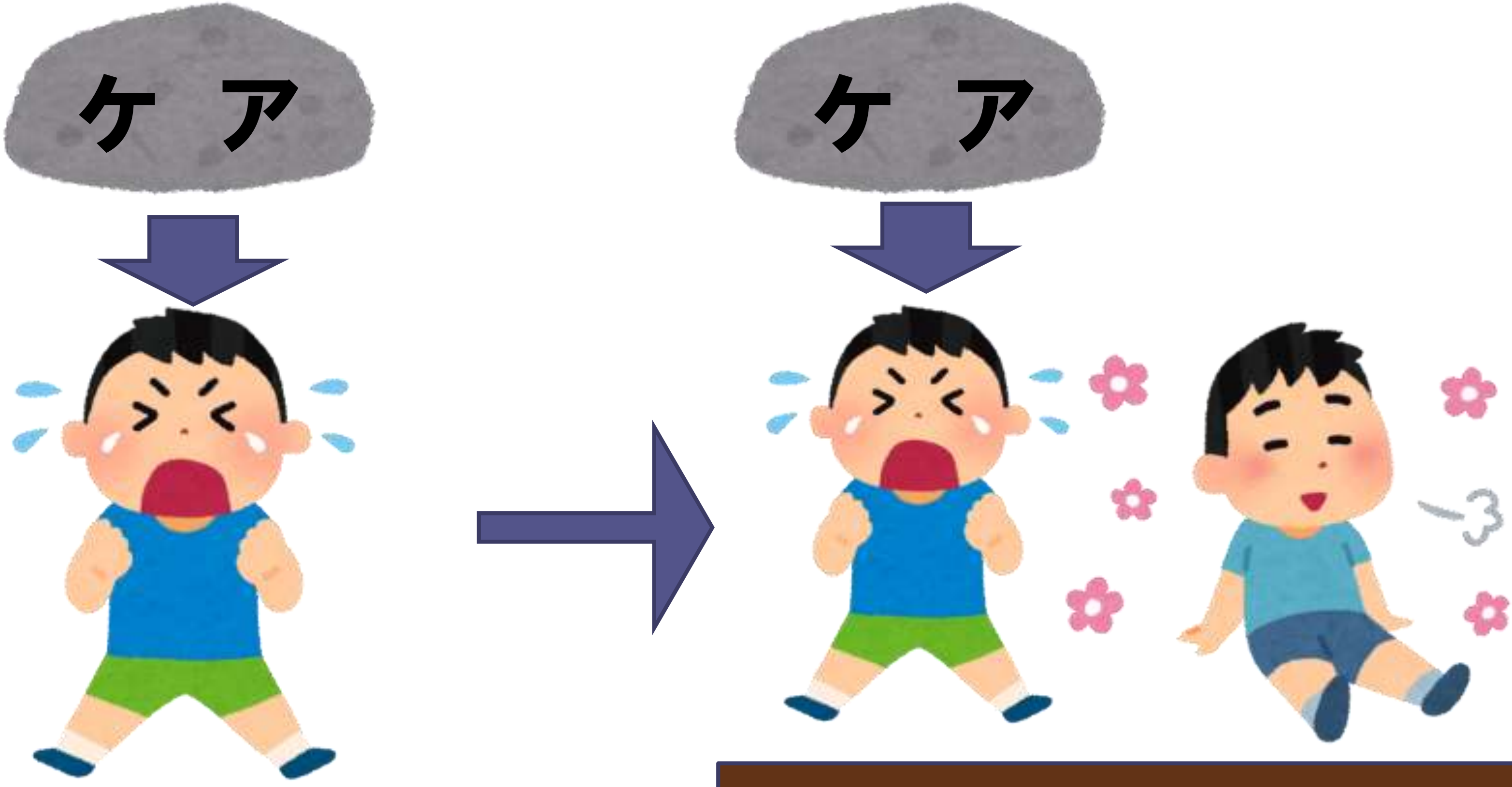
子どもの思いと環境と将来を考えた上での着地点の設定

↓

「ケアを外す」ことだけが支援ではない！

という認識の共有

SSWの立場で考える「ヤングケアラー」理解



家族とのつながり・支え

SSWの立場で考える「ヤングケアラー」支援

子ども自身が「ケアラーとしての自分」に存在意義を見出しているのであれば、それ以外の環境にもあなたの存在意義があるよ、と伝えてあげられる身近な存在探し

例えば・・

　学校・担任・それ以外の先生・友達・社会資源

　勉強がわかること、分からなくても認めてもらえること、

　その子の好きなもの・楽しいことを尊重してくれる関わり

「ケアラー」としてだけではない

自分自身の存在を実感

ソーシャルボンド（社会的絆）の強化

支援者として共有したいこと

- 「問題とされること」が大人と子どもでは異なっている場合があります。子どもの視点に立って考える必要があります。
- 大きな問題解決が困難な場合、子どもや家庭が「社会とどうつながり続けるか」を支援の目標にせざるを得ない場合があります。状況は変わらなくても、気持ちをわかってもらえる、弱音を吐ける関係性はその後の希望につながります。
- 「見通しを持つこと」が大切です。今は難しくても、どのタイミングで介入ができるか、変えられるかを当事者と支援者が共有できると、希望を持って動くことができます。